

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 6 回 中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会		
事務局 (担当課)		医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時		令和 4 年 6 月 7 日 (火) 1 9 時 0 0 分 ~ 2 0 時 1 5 分		
開催場所		W e b 開催 及び 相模湖総合事務所 3 階大会議室		
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	2 人 (在宅医療・介護連携支援センター所長・健康増進課長)		
	事務局	7 人 (保健衛生部長、保健衛生部参事、医療政策課長、他 4 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) これまでの議論の整理について (2) 基本方針の策定に向けて (3) その他		

議 事 の 要 旨

(1) これまでの議論の整理について

資料に沿って事務局より説明を行い、意見交換を行った。

<主な意見等>

○私立の診療所の開業者に関する議論が取り残されてきたように感じている。この地域にある私立の診療所は多くないので、例えば訪問診療機能の充実を図るような仕組みなどを運用する際には、私立の診療所の参加意向も聞いた中で制度設計について検討していただきたい。(原田委員)

→ 議論の整理の中に反映させていただく。(事務局)

○ICTを活用し、訪問看護ステーションや介護事業所、薬局、歯科など、多職種・多機関と情報共有ができるプラットフォームがあると良い。電子カルテの活用はそれに資すると考えるが、使いやすさや汎用性に配慮して導入を進めてほしいと思っている。(土肥委員)

○仮に再編によって身近な診療所が閉院となった場合、その地域においては利便性が低下する面もあると思う。できるだけ利便性を損なわないような対応のアイデアの一つとして、統合して残った診療所の診療日を拡大するなど、柔軟な発想があっても良いのではないか。(土肥委員)

○地域では、近くに診療所がなくなっては心配だという声がある。統合して残った診療所が医師二人体制になったとして、どこまでカバーしてもらえるのかは未知数であり、かかりつけ医としての機能が発揮されるのかという点も疑問に思う。通学可能な高校を拡大していくことなども含め、地域では移住・定住の促進に向けた取組に力を入れているが、生活の基盤である診療所が近くなくなるのは痛手である。(長谷川委員)

○統合して残った診療所に利用者が集まることを考えたときに、既存施設の活用では診療に必要なスペースや職員のためのスペースが不足することも懸念される。閉所となる地域の利便性を考えた場合に、中間地点に新たな施設をつくるなどの構想があってもよいのではないか。また、再編後に市立診療所と国保診療所が残った場合、運営形態についてはどうなるのか。(西委員)

→ 統合後の施設環境の確保や運営形態については、今後、指定管理者などの意見を伺いながら市で検討していく必要がある。(事務局)

○診療所の統合について、マイナスとマイナスの数字を統合していかにプラスにできるのか。それぞれの診療所がどのように経営を立て直していくのかというのが課題となっていくと思う。いつの頃からか、市所管の診療所が看取りや時間外の対応をしなくなった印象がある。地域のかかりつけ医としては、在宅での看取りが診療所でも積極的にできる体制も必要ではないか。また、この地域には公立の

訪問看護ステーションはない。民間の訪問看護ステーションは看護師が集まらずに高齢化が進み、なかなか依頼を受けきれない状況もあるので、統合にあたっては訪問看護の充実にも目を向けていただけるとかかりつけ医としての役割も大きくなると思う。(井坂委員)

○地区ごとに1診療所とするのであれば、地域包括ケアの推進に寄与できる診療所として機能の充実を図るべきである。医師2人体制となれば、胃カメラなどを含め、検診に力を入れることもできるし、看取りの対応などもできるかもしれない。看取りの対応があることを前提に、民間の診療所や関係機関との連携体制をつくることは大事だと思う。また、ACPの視点も大切である。(土肥委員)

○地区内にあった2つの診療所を1つにした場合、2診療所の患者がそのまま利用するものでもないと思う。患者が離れることによる収支への多少の影響はあると考えた方がよい。対応する備えとして、診療の幅を広げたり、検診機能を充実させたり、施設環境を改善するなどがあっても良いと思う。(西委員)

○診療所の再編については慎重な議論が必要だと思っているが、基本方針として「在宅医療の充実と医療・介護の連携推進」や、「地域と連携した疾病予防・介護予防等の推進」が打ち出されている中では、施設を統合することによる前向きなコンセプトを打ち出すこともできるのではないか。これまでの診療所のイメージで物事を考えると患者さんに来てもらうことが前提になるため、施設の統合により遠くなること等がデメリットとして捉えられてしまうが、基本方針を具現化するために診療所を統合して医師2人体制とし、医療従事者が医療を届けたり疾病予防・介護予防の取組への介入が進むなどのアクションが可能となるのであればポジティブなはずである。地域へのメリットが生まれる統合、という提案のしかたはできると思う。(堤委員)

(2) 基本方針の策定に向けて

資料に沿って事務局より説明を行った。

<主な意見等>

意見なし

(3) その他

これまでの議論を振り返り、各委員から意見や今後に向けての抱負が語られた。

<主な意見等>

○この会議に参加して初めて知る医療の課題もあった。日々の中では、他の職種の方々がどのように働いているのかわからない部分も多く、地域連携と言いながらも視野が狭まっていた部分があったと反省している。地域連携の重要さに改めて気づけたので、今後の活動に活かしていきたい。(井坂委員)

- 日頃、医療の課題に無頓着だったと気づいた。まちづくり会議でも部会を設け、時間をかけて健康づくりをテーマとした取組を進めていくことになった。今後、勉強を重ねるにつれて地域からも意見が出てくると思うので、市とも連携して対応していきたい。(小河原委員)
- 調査に関わらせていただき、この地域が抱えている医療の課題を知ることができた。地域医療を担っている関係者の皆さんはご苦労されていると思うが、地域住民の皆さんも含めた取組が進み、より良い医療体制が実現できるよう、また別の立場で役に立てればと思っている。(堤委員)
- 内郷診療所に赴任して22年間、この地域で自分に何が求められているのかと常にアンテナを張りながら取り組んできたことを、この会議の中でも伝えてきたつもりである。限られた時間や医療資源の中で地域の健康づくりを進めていくためには、住民自身の健康づくりやセルフケアの取組、受診すべきかどうかの判断なども不可欠であるので、それができるように取り組んできた。今後も必要とされる多職種・多機関の連携システムをつくり、後進の修学医師の皆さんが地域住民と対話をしながら地域医療を担えるようになると良いと思っている。引き続き、そのお手伝いをしていきたい。(土肥委員)
- 懇話会で議論を始めたころ、「持続可能な医療」というものは何なのか、掴みきれずにいたが、議論を重ねるにつれ、最終的には医療のあり方とともに診療所の経営についても意見交換をすることとなり、その理由が分かった気がした。この地域に国保と市立の診療所が6つもあるということは、設立当時はかなり不便な地域だったと想像する。しかし、現在は道路事情も良くなっている。地区ごとに一つの診療所に統合するのであれば、必要に応じて新たな施設を建てたり、有床診療所として診療の幅を広げるなどを検討しても良いと思う。これは市としてどれだけの赤字を覚悟できるかにかかっているとは思いますが、一つの提案として申し上げる。(西委員)
- 中山間地域に暮らす住民や医療従事者、市の財政など、いろいろな課題に直面していることがよくわかった。高齢化と移動手段の減少が、薬局として診療報酬が得られないサービス業務の拡大につながってしまうことを懸念している。市所管の診療所の統合が進み、在宅医療のニーズが増えた場合に薬局はどのように対応したらよいかが見通せない状況であり、薬局の経営維持についても検討が必要と感じている。薬局は、患者さんから気軽に話ができることもあり、顔の見える関係づくりがしやすい場である。検査値などから、食事指導や運動のすすめなどで悪化を防いだり発症予防につなげたりという大きな計画や予算をかけずにできることがある。今後も対話を通じて地域の医療に貢献していきたいと考えている。(野崎副会長)
- 相模湖地区は高齢化率が40%を超えており、近くに診療所がなくなると高齢者

のケアについて心配な面はあるが、出向く医療が充実するなど、地域にとって良い形になることを願っている。地域ケア会議を主催する立場にいるが、地域では看取りの問題も含め、医療従事者やケアマネジャー、民生委員などの連携は形として見えてきていない。懇話会での意見交換の結果が、今後、形として見えてくることを期待したい。(長谷川委員)

- 医師会選出の委員として参加した。中山間地域の持続可能な医療のあり方という難しいテーマに対して医師会がどのようにタッチしていけるかの結論は得られなかったように思う。しかし、このテーマに立ち向かうための基本となるのは病診連携と診診連携であり、医師会が果たす役割はある。今後、修学医師も積極的に医師会の輪に入ってもらい、診診連携を進めていけると良いと思っている。(原田委員)

- 地域ごとに必要とされる医療、求められる医療は違うので、これからも話し合いを繰り返し、より良い医療体制を作っていけたら良い。人口過疎、医療過疎とさまざまな問題があるが、そういった地域のモデルケースになるような医療体制を目指していきたい。(事務局：森田委員コメントを代読)

- 民間の診療所をはじめ、今までこの地域でがんばってきた医療従事者の皆さんとともにより良い地域医療体制づくりができるよう、これから市としての検討を進めていただきたい。近くにあった診療所がなくなることは大変なことだと思うが、統合によるメリットを感じていただけるようにしなければいけないし、そこで貢献できる若い医師を育成していかなければいけないと思っている。(青山会長)

以 上

中山間地域の持続可能な医療のあり方に関する懇話会
委員出欠席名簿

(五十音順)

氏名	選出団体等	出欠席
青山 直善	学識経験者 (北里大学医学部総合診療医学 教授)	出席
井坂 美代子	相模原市訪問看護ステーション管理者会	出席
石橋 了知	藤野地区まちづくり会議	出席 (途中退席)
小河原 祐二	津久井地区まちづくり会議	出席
堤 明純	学識経験者 (北里大学医学部公衆衛生学 教授)	出席
土肥 直樹	相模原市立国民健康保険診療所	出席
西 八嗣	相模原市立診療所の指定管理者	出席
野崎 喜代美	相模原市薬剤師会	出席
長谷川 兌	相模湖地区まちづくり会議	出席
原田 工	相模原市医師会	出席
布施 厚子	相模原市歯科医師会	欠席
森田 亮	相模原市病院協会	欠席